

# 21世紀枠 城南、報徳破る

**選抜 高校野球**  
甲子園 第5日

1回戦3試合を行い、21世紀枠で春夏通じて甲子園大会初出場の城南(徳島)、昨秋の九州大

会を制した鹿児島実、昨夏準優勝の東海大相模(神奈川)が勝った。

城南は竹内の3ランなどで昨夏4強の報徳学園(兵庫)を8-5で破る殊勲の白星を挙げた。鹿児島実はずり秋の関東

▽1回戦(第1試合)  
城南(徳島) 000 1221 0004  
000 020 102 58

報徳学園(兵庫)  
困竹内(田村) 101 100 0000  
000 021 00X 53

浦和学院(埼玉)  
鹿児島実(鹿児島) 110 021 00X 53

▽1回戦(第3試合)  
関西(岡山) 000 000 0001  
220 320 00X 91

東海大相模(神奈川)

大会覇者の浦和学院(埼玉)に5-3で逆転勝ち。大会の九州勢4校はいずれも、春夏通算30勝目。今大会の九州勢4校はいずれも、春夏通算30勝目。今大会の九州勢4校はいずれも、春夏通算30勝目。今大会の九州勢4校はいずれも、春夏通算30勝目。



9回、城南の竹内が3ランを放つ

粘りのエース  
打っては3ラン

城南

公式戦初本塁打が大事な場面で飛び出した。城南・竹内は2点リードの9回、直球を左翼席へ届

ける3ラン。「いい角度であがったけど、いらないかもと思って全力疾走でした」。連続四球で制球に苦しむ相手バッテリーの配球を読み、狙い球を一振りして仕留めた。竹内は投げても鋭いス

登録の2年生左腕、庄司が完投、中国大会優勝の関西(岡山)に快勝した。中国勢3校は1回戦敗退。中国勢が全て初戦で敗れたのは1984年以来27年ぶり。

監督の予言的中  
逆転2点適時打

鹿児島実

九州勢のしんがりで登場した鹿児島実が、浦和学院との競り合いを制し

ライダーを多投し、粘る報徳学園の反撃を振り切った。甲子園初出場の重圧を全く感じさせず常に先手を取っての快勝劇。竹内は「21世紀枠のチームでもここまでやれることを示せた」と初々しかった。